



令和5年度県産農林水産物・食品の域内流通強化支援事業



パッションフルーツを知ろう



現場の声 生産者／照屋和江さん

つる性植物であるパッションフルーツは、放っておくとあちらこちらにつるを伸ばして絡まってしまいます。それに風の強い日は一生懸命掴まろうとして、伸び方が全然違う。だからその都度、不要なつるを全部取り除き、地面に向かってきれいに垂れ下がる樹形を作っています。台風などで3日来れないと、元に戻るのに5日かかるんです。声で訴えたり自分で移動したりできないからね。パッションフルーツにとって、ここを過ごしやすい環境にするのは私の役目なんです。

楽しむ才能① データ収集

パッションフルーツは手がかかると言われるが、その理由の一つが受粉作業。自分の花粉で結実しない品種も育てているため、別の木から採取した花粉を一つ一つ手作業で受粉させている。この受粉作業が好きだと言い、きれいに整えられた棚は、花芽の数や受粉作業の管理を効率よく行う工夫がされている。「受粉しながら、いつ、どれくらいのサイズが、どれくらいの量、獲れるかわかる。虫や病気のチェックもできるよ。」照屋さんは、生育状況を毎日手帳に記録。18年分のデータから最高のパッションフルーツを作る。



楽しむ才能② 生態調査

有機農業では農薬の使用が制限されているため、照屋さんは病害虫の防除に土着天敵の力を活用している。益虫を住まわせるために花を植え、ほ場のすみの小さな池にはカエルがいる。見知らぬ虫がほ場内にいると、どこに付いているのか、何を食べているのかを知るために虫かごに入れて飼育したり、専門家に頼んで調べてもらったりするという。「虫が教えてくれる」ことに耳を傾けることで病気のまん延を防ぐことができるといふ。沖縄で有機農業に取組む人からも問い合わせが多い、有機農法の先駆者である。



研究家で努力家

国も力を入れている有機農業。安定生産の技術や資材供給、認証取得費用などの面で生産者にとってのハードルはまだ高い。「高く売りたいから有機JASをやっていると誤解している人が多いのかもしれないけど、そうじゃない。私は自分の腕を上げるためにやっている。去年より上手になりたいし、それをずっと続けたい」と照屋さんは話す。上手くいったこともいかなかったことも「なぜそうだったか」を追究。おいしさに定評のある照屋さんのパッションフルーツ、その理由がここにある。



〈お問い合わせ〉 直取引、市場出荷は行っていません。出荷時期となる2月～6月は、楽天市場 楽天農場店、または近隣の農産物直売所（おんなの駅、ゆんた市場）で購入可能です。人気商品のため、早めにお越しいただければ幸いです。

おんなの駅なかくい市場
「楽天市場 楽天農場店 てるてるファーム パッションフルーツ」で検索

03 情熱が作る、綺麗なパッションフルーツ

|てるてるファーム

有機JAS認証を取得し、恩納村でパッションフルーツとアテモヤを栽培するてるてるファームの照屋和江さんは、優れた農業経営を行い、地域振興に意欲的な農業を実践する女性農業士。農業を学ぶ学生や同じ有機農業に携わる農業者など全国からの視察が絶えない照屋さんのほ場は、心地よく整えられて深呼吸したくなるような空気に包まれている。風が通りぬける棚に実をつけるパッションフルーツはとても気持ちよさそうにその実を色付けている。



|パッションフルーツについて

カロテンが多く含まれ風邪の予防や美容に効果があると言われているパッションフルーツは、甘みと酸味と、豊かな香りが魅力の熱帯果樹。拠点産地に指定されている恩納村にはたくさんのパッションフルーツ生産者がいるが、有機JAS認証を取得している人は照屋さんだけ。3月～6月頃に最盛期を迎え、華やかな南国らしさを感じさせる果物として人気のフルーツとなっている。



宣言に向けた取り組み

2017年度

- ・「サンゴの村フェスタ 2017」in うんなま祭りの開催
- ・恩納村サンゴ確保全再生活動地域協議会設立準備会の立ち上げ
- ・庁内プロジェクトチームを立ち上げ、恩納村役場各課における取り組みを推進
- ・ロゴ&オリジナルキャラクター公募、決定
- ・恩納村コープサンゴの森連絡会とパートナーシップ協定の締結
- ・サンゴに関する絵本づくり講座
- ・サンゴの日「サンゴの村宣言」キックオフイベント開催



2018年度

- ・恩納村サンゴ確保全再生活動地域協議会の発足
- ・サンゴのむらづくりに向けた行動計画の策定
- ・総合的な学習の時間でのサンゴに関する学習・観察会（喜瀬武原小中学校）
- ・絵本づくり講座大賞作品の出版
- ・「サンゴの村フェスタ 2018」in うんなま祭りの開催
- ・日本UNEP協会とパートナーシップ協定の締結
- ・サンゴに関するカルタづくり講座



※各事業に「沖縄県サンゴ確保全再生地域モデル事業」を活用しています。



「サンゴの村宣言」

～世界一サンゴにやさしい村～



恩納村は、風光明媚な自然環境に恵まれ、穏やかな暮らし
びりとともに国内有数の観光リゾート地として成長して
きました。

健全で豊かな自然環境の保全は、村民が健康で文化的な
生活を営む上でも重要であり、この恵まれた自然環境を次
世代に引き継いでいくことは、私たちの責務でもあります。

私たちは、改めて自然の恩恵なしでは生きていけないこ
とを認識するとともに、自らの生活様式や社会経済活動の
あり方を見つめ直し、行政・村民・事業者が一体となった、
環境負荷が少ない持続的発展が可能な社会の構築に向け、
自然環境に優しい地域づくりを目指すため、ここに恩納村
を「サンゴの村」とすることを宣言します。

2018年7月21日

恩納村長 長浜善巳

【お問い合わせ】

恩納村役場 企画課
沖縄県国頭郡恩納村字恩納 2451 番地
TEL 098-966-1201



沖縄県恩納村

趣旨・目的

本村は、長大な海岸線とイソー、背後の山並み等、恵まれた自然環境のもと古くから農漁業や暮らし、集落のたたずまい等の景観を育て、これらは観光リゾートにおけるかけがえのない資源となっています。

とりわけサンゴ礁は、漁業や観光業の重要な資源であり、本村の大切な宝です。しかし、近年はオニヒトデの大量発生、赤土等の流出、海水温の高温化によるサンゴ白化現象等により、サンゴ礁が減少している状況です。

そのため、村民一人ひとりの自然環境に対する意識の向上を図り、本村の豊かな自然環境の保全と育成を行い、地域資源を活かした「恩納ブランド」の確立に向けた「サンゴの村宣言」プロジェクトに取り組むこととしました。

宣言の日

2018年7月21日「第35回うんなまつり」で宣言

ロゴ・キャラクター



名前
さんな
Sunna ちゃん

- 「やさしさ」で繋がる恩納村
- サンサンと降り注ぐ太陽
- どこまでも広がる青空
- 恩納村に溢れる自然の緑
- 穏やかに流れる海
- 海中に生きる色とりどりの美しいサンゴ

- 恩納村の豊かな自然環境を守るために生まれたサンゴの妖精
- 自然環境の保全と育成の大切さを愛らしい笑顔でアピール♪
- 太陽の“Sun”、サンゴの“サン”、恩納の“na”、“S”を取ると“unna”（うんな）
- プレスレットは恩納村特産品の海ぶどう

サンゴのむらづくりに向けた行動計画

環境負荷が少ない持続的発展が可能な社会の構築に向け、以下のように基本理念を位置づけます。

1 やさしさと誇り（普及啓発に関する事業）

- ・イメージキャラクター作成及び活用事業
- ・サンゴの村フェスタ
- ・環境関連データのモニタリング調査の実施
- ・世界一を発信する取り組み
- ・デジタルコンテンツ導入事業

2 人づくりと協働（人材育成に関わる事業）

- ・総合的な学習の時間でのサンゴに関する学習の実施
- ・絵本製作事業
- ・サンゴや海辺の生き物に関する学習会の開催
- ・サンゴの写真展、パネル展示等の開催

3 交流と活力（産業振興に関わる事業）

- ・漁港施設内における環境美化事業
- ・漁港施設利用のルールづくり
- ・コープでの恩納村PR事業
- ・サンゴの歌の普及
- ・産業振興に関わる人材育成

4 共生と持続（環境保全、事業継続に関する事業）

- ・赤土等流出防止営農対策促進事業
- ・赤土等流出防止活動支援事業
- ・エコクーポン事業
- ・水産多面的機能発揮対策事業
- ・サンゴに優しいライフスタイルの提案

サンゴの村宣言プロジェクト

実施体制



関係団体との連携

これまでサンゴ礁保全に取り組んでいただいている「恩納村漁協」「恩納村コープサンゴの森連絡会」「チーム美らサンゴ」に加え、「サンゴ礁保全再生活動地域協議会」「里海づくり推進協議会」「地域づくり推進委員会」「庁内プロジェクトチーム」等と連携を図り、村民・事業所・関係機関での一体的な取り組みによる事業を推進してまいります。

今後の取り組み

- Green Fins（グリーンフィンズ）の導入
- SDGsによるまちづくりの推進
- ローカル認証制度の導入

